



令和4年度 8・9月号(R4.7.20)

朝七小だより

朝霞市立朝霞第七小学校
〒351-0036 朝霞市北原2-6-1
TEL 048-472-9172 FAX 048-476-1327
E-mail 7shou@asaka-c.ed.jp

学校教育目標『心豊かにたくましく生きる児童の育成』 ○考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
目指す学校像 生き生き学び高め合う学校 一人一人の良さを伸ばす元気な学校

校長 嶋 徹

1学期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部変更した教育活動もありましたが、概ね計画どおり進めることができ、児童の成長を導くことができました。本校の教育活動にご理解ご協力をいただきました保護者、地域の皆様に、心から感謝を申し上げます。

明日から子どもたちが、心待ちにしていた39日間の夏休みが始まります。新型コロナウイルス感染症と熱中症の予防、交通安全にご留意いただき、健康で楽しくお過ごしください。

耐え抜く力(耐性)を強め、人間力を高める

「あの子は本当にしっかりしている。素晴らしい子だ。」「気持ちが温かくて優しい子だ。」「勉強もスポーツもできる優秀な子だ」など、ほめ言葉はたくさんあります。教職に就いて30余年、いろいろな子どもや保護者と接してきましたが、とても記憶に残っている姉妹がいます。その姉妹は、中学校に勤務していた時の生徒です。2人とも頑張り屋さんで礼儀正しく、明るい性格で友人が多い、勉強も運動も優秀で非の打ちどころがない学年のリーダー的な生徒でした。

ある時、姉妹の母に「どう育てたら、お子さんのような子に育つのですか。」とストレートに聞いたことがありました。すると母からは、「特別な育て方はしていないと思います。頑張った時は褒めるし、ダメなことは叱ります。だから、普通だと思います。しいて言えば…

(間)、嫌なことから逃げる子には育てたくないの、習い事(ピアノと習字)は中学校までは絶対に辞めさせなかったですね。」ということでした。続けて、「お父さんはどう子育てをされたのですか。」と尋ねてみました。すると「主人は体を動かすことが好きなので、休みの日は子どもが小さい時からよく遊んでくれました。自転車、一輪車、鉄棒の練習は主人がよく見てくれて、できた時はいっしょになって喜んでいました。小学校高学年の頃は、校庭や広場でバスケットやバレー、バドミントンなどのスポーツを経験させると言って、子どもより自分が楽しんでいました。20キロ以上離れた場所に電車で行って帰りはしゃべりながら家まで徒歩で帰ってくるとか、父と娘たちが自転車を連ねて1日かかりで他市の七福神巡りをするとか、ちょっと変わった冒険もしていました。スキーの時は「寒い、帰りたい」と泣き言を言っはいけないルールがあつて、それは厳しかったみたいですよ。」と笑いを交えてエピソードをたくさん教えてくれました。

この家庭の教育方針の1つには、「つらいことがあつても途中で逃げ出さないこと」があり、保護者が上手に導いていると感じました。子どもは幼少期からさまざまな体験を通して、「耐え抜く力(耐性)」や「困難を乗り越える力」を身に付けていかなければなりません。こうした経験や成功体験を積み上げることで成長し、心身ともに逞しい人間へと育ちます。

夏休みは、子どもにとっても保護者にとっても、非日常的なことが体験できるチャンスです。生涯の思い出となるような親子のチャレンジは素敵だと思いませんか。

